

## 6 1. <マーフィーの法則>

以前に「マーフィーの法則」というのが流行りました。これは、もともとはアメリカ空軍発祥の「失敗する可能性のあるものは失敗する。」という経験則で、常に最悪の場合を想定すべきであるという、システム開発や労働災害予防、フェールセーフの概念だったのですが、次第に「洗車をすると雨が降る。」等、日常生活にも拡張されて行ったようです。

先日、図書館に「マーフィーの法則」の本があるのを見つけて久しぶりに読んで見たらなかなか面白かったので、仕事に関係ありそうなものを、多分に自戒の意味を込めてご紹介したいと思います。

### ①「前提条件の間違ひは結論に現れる。」

一つのプロジェクトが走り出すとなかなか大きな方針転換は出来ないものです。何事もその始まり、仕事の上流部分が大事ということですね。JSで言うと、「計画設計は大事だぞ」ということでしょうか。

### ②「会議の効率は、参加者数と討議に要する時間に反比例する。」

これは、皆さん多分納得でしょう。なお、会議については「会議時間は、参加者数の2乗で長くなる。」という法則もあります。「会議の効率は、会議資料の厚さに反比例する。」(筆者作) というのはどうでしょうか。

### ③「憶測は失敗の母である。」

往々にして、又聞き情報に基づいて判断をして後悔することがあります。ひどいケースでは、「〇〇さんがそう言ったと聞いた。」という情報を、誰から聞いたかと辿って行くと何と自分が発信源だったりすることがあります。情報源には直接当たることが大事ということですね。

### ④「理論の予想と異なる事実は、破棄されるべきだ。」

技術開発に従事していると、この技術でうまく行くはずだという見込みが、全くはずれてしまったりすることがあります。現実をきちんと把握して最善の対応をすることが重要であると肝に銘じたいと思います。なお、比較的近い趣旨のものに、「うまく行った実験は繰り返すな。」があります。

### ⑤「結果が事前にわからない限り、研究予算は承認されない。」

官公庁、民間企業の何処も財政状況が厳しい昨今、なかなか成果が確実でない研究開発テーマには予算を付けにくい事情があります。しかしながら、長い目で見ると、このような時期にこそ次世代を目指した思い切った研究開発投資が求め

られています。なお、類似のものに、「踏み固められた道は、往々にして進む価値がない。」があります。

⑥「説明資料のミスは説明中に発見される。」(筆者作)

説明資料のミスは、事前に何人もチェックしても見つからなかったものが、説明中には不思議と自分で気が付くものです。こうゆう時には、どうやって誤魔化そうかということに、自分でも驚くほど頭が早く回転します。こういう場合の頭の回転速度が普段の業務の生かせたらとつくづく思うのですが。

⑦「雨は夜中と休日に降る。」(筆者作)

筆者は、以前雨関係の調査に従事していたことがあります。不思議と雨が降るのは夜間か休日が多い気がします。多分、皆さんも同じ感想ではないでしょうか？平日の日中から降りだして、うまく調査データが取れたというケースは少ないような気がします。気象統計上でも本当にそうなのか、誰か知っている方がいれば教えて下さい。

⑧「樽一杯のワインにスプーン一杯の汚水を注ぐと、樽一杯の汚水になる。」

この法則は、まさに下水処理の基本だと思います。わずかの汚濁物質でも、場合によっては水域全体を汚染してしまうのです。特に、最近では、微量汚濁物質が問題化して来ているので、この法則にリアリティーを感じます。

⑨「原稿締め切りまでの日数は、三ヶ月でも三日でも同じである。」(筆者作)

原稿依頼があっても、締切日直前にならないと書き始めない筆者の計画性の無さを反省しつつ、また、その為、いつもご迷惑を掛けている編集担当のTさんに心の中でお詫びしつつ終わりとします。

(注) 文中の「マーフィーの法則」は、「マーフィーの法則」アーサー・ブロック著 倉骨 彰訳 アスキー出版局より引用しました。

(村上 孝雄)

※ J S 技術開発情報メール No.67 号(2007/6/5)に掲載